

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	067 -	事業名	高齢者優待事業			担当部課	福祉部長寿課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち				会計区分	一般会計 予算区分(款 - 項 - 目)			
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～								
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち				3-1-2 老人福祉費				
	法定受託事務の有無	-								
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 長久手市高齢者文化施設優待事業実施要綱、あつたかあど交付要綱、長久手市高齢者外出促進事業実施要綱								
事業開始の背景、経緯等	市内の施設や公共交通機関の利用を優待補助し、高齢者の外出を促すことで社会的視野を広めるとともに生きがいを得られるよう事業を開始した。									
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 高齢者に対し、福祉の家や市内の文化施設、公共交通機関の利用について全額又は一部を助成する。								
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民								
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出機会を増やし、社会参加を促すことで健康寿命の延伸や地域内交流を活性化させる。								
	事業を構成する事務事業(B票)	① 高齢者文化施設優待事業	改善・見直し	④						
	② あつたかあど事業	拡充	⑤							
	③ 高齢者外出促進事業	改善・見直し	⑥							
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)		
	事業費(A)	千円	予算	6,492	9,070	9,975	10,799	9,105		
			決算	6,032	8,382	8,824	9,164			
	人件費(B)	千円	決算	3,397	2,452	2,611	1,340			
総コスト(A)+(B)	千円	決算	9,429	10,834	11,435	10,504				
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)		
	A 文化施設優待事業利用者数	人	目標	980	1,020	1,060	1,100	1,100		
			実績	1,255	1,034	1,251	1,065			
	B 福祉浴優待利用人数	人	目標	5,250	5,450	5,650	5,650	5,650		
			実績	4,640	4,658	4,536	4,179			
	C リリモ利用券交付枚数	枚	目標	3,580	3,750	3,850	3,950	5,100		
			実績	4,151	5,015	4,693	5,087			
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)										
A 前年度実績を元に目標を設定										
B 前年度実績を元に目標を設定										
C 前年度実績を元に目標を設定										
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化 (他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 名古屋市の敬老パス、尾張旭市の高齢者タクシー基本料金助成等、高齢者の外出負担の補助を行う制度が中心である。									
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 福祉浴の利用は横ばいかやや減少傾向であるが、文化施設優待とリリモ利用券交付の指標は目標値を達成しており、高齢者等の外出の機会は、概ね確保できていると考えられる。								
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 実績値はほぼ横ばい状況であるが、高齢者等の外出の機会は、概ね確保できていると考えられる。								
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 過去3年間の実績値も頭打ち又は減少しているため、閉じこもっている人の外出を促す改善等が必要。								
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 外出のための経済的な支援だけではなく、外出するための機会や目的の創出を行う。								
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 一方的な優待事業ではなく、自ら外出したくなる仕組みづくり、市民協働による輸送手段の確保等を検討したい。								

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・高齢者福祉事業を含め、事業の意図と対象者である高齢者の活動内容を再確認し、各事業の見直しを検討してください。
------	-------------------------	---

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者優待事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	①	高齢者文化施設優待事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成8年度	終了(予定)年度	-		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<b>【対象者】</b> 満65歳以上の市民 <b>【内容】</b> 年度内に名都美術館3回及びトヨタ博物館1回無料で入館することができる。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の文化活動への関心を高めることで、外出してもらう。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算 決算	551 707	562 572	610 712	601 598	640
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		文化施設利用助成金					598 千円
(2)							千円
(3)							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
利用者数	人	見込	980	1,020	1,060	1,100	1,100
		実績	1,255	1,034	1,251	1,065	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
名都美術館入館者：862人(517千円) トヨタ博物館入館者：203人(80千円)							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

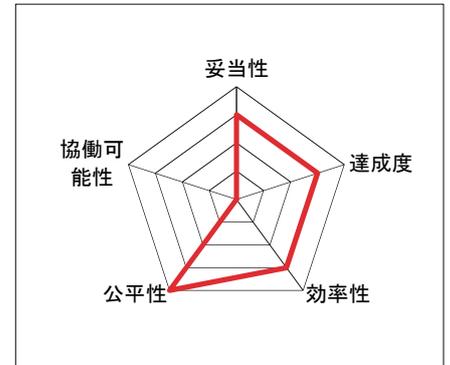
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
孤立化する高齢者の増加に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
601 千円	640 千円	39 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】	あったかあど優待事業への編入などの見直しを検討する。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
申請場所が長寿課のみであったが、福祉の家でも申請できるように変更した。		

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	-



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市が行う高齢者への優待事業であるため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
申請場所を長寿課窓口の他に福祉の家の窓口でもできるように改善したことで、概ね目標どおりの利用件数があり、高齢者の外出のきっかけづくりとなっている。

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
利用者が一部の方に偏る傾向があり、多くの方が利用できるよう事業内容の見直しが必要である。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者優待事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	②	あったかあど事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成14年度	終了(予定)年度	-		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 ござらっせの優待料金(700円→400円)による利用、福祉浴室・歩行浴室の利用及びN-バスの無料乗車ができる。 ※年間10回は、福祉の家の福祉浴室及び歩行浴室が無料
	意図 (対象をどのような状態にしたいか) 高齢者の外出の機会を増やし、社会参加を促すことで地域との交流を盛んにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	2,518	2,518	3,195	3,327	3,521
		決算	3,021	3,391	3,581	3,525	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		健康増進事業助成金				3,525	千円
(2)							千円
(3)							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
福祉浴優待利用人数	人	見込	5,250	5,450	5,650	5,650	5,650
		実績	4,640	4,658	4,536	4,179	
カード発行枚数	枚	見込	785	815	845	875	900
		実績	2,250	1,485	1,206	1,110	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
62店舗を訪問し、あったかあど協賛店に加入してもらえるように、協力を依頼した。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

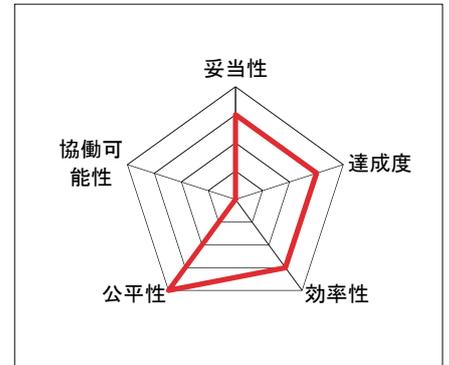
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 孤立化する高齢者の増加に伴い、高齢者の外出機会の創出、居場所づくりは喫緊の課題である。
---

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
3,327 千円 3,521 千円 194 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
外出を促進し、つながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、高齢者が興味を持って外出したくなるような、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を検討し、今後も事業を継続する。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
外出促進の機会を増やすため、赤あったかあど協賛店の店舗拡大を行った。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	-



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市が行う高齢者への優待事業であるため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
あったかあどの発行枚数は、目標を大きく上回っており、利用が定着してきている。しかし、あったかあど保有のメリットが少ないため、利用方法の拡大等の検討が必要である。

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
外出を促進し、高齢者同士のつながりの強化、社会への参加機会の拡充を図るため、高齢者が興味を持って外出したくなるような赤あったかあど協賛店の店舗拡大を目指す。

## 7. 今後の方向性

拡充

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	高齢者優待事業		担当部課	福祉部長寿課	決算書ページ	—
事務事業名	③	高齢者外出促進事業	予算区分	3-1-2 老人福祉費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成20年度	終了(予定)年度	-		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 満65歳以上の市民 【内容】 年度に1回マナカチャージ券(1,000円分)を交付する。 運転免許証自主返納者に1回限りのマナカチャージ券(5,000円分)を交付する。
	(対象をどのような状態にしたいか) 意図 高齢者の外出の機会を増やす。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	3,423	5,990	6,170	6,871	4,944
		決算	2,304	4,419	4,531	5,041	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 高齢者外出促進事業委託						4,911	千円
(2) 印刷製本費						130	千円
(3)							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
交付枚数	枚	見込	3,580	3,750	3,850	3,950	5,100
		実績	4,151	5,015	4,693	5,087	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
年度内に1回マナカチャージ券(1,000円分)を4,502枚交付。 運転免許証自主返納者に1回限りマナカチャージ券(1,000円分×5枚)を585枚(60代14人、70代45人、80代54人、90代4人)交付。							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

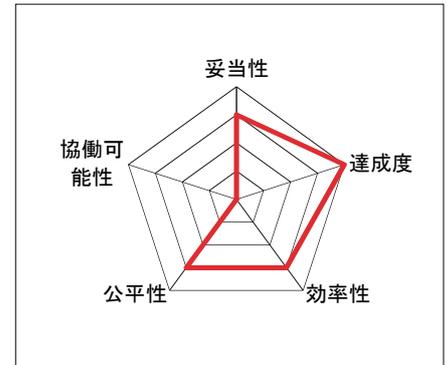
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 公共交通機関の乗車券のIC化が進み、リコモでもマナカが利用できるようになった。
---

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
6,871 千円 4,944 千円 △ 1,927 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】 高齢者外出促進事業のほか、あったかあど事業及び高齢者文化施設優待事業においても外出促進を視野に事業改善を行い、高齢者の外出の機会を増やしていく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 継続的に実施することで、高齢者の外出支援を行った。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	-



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市が行う高齢者への優待事業であるため。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) リコモカードからマナカチャージ券に変更したことにより、名鉄バス、名古屋市営地下鉄等、利用できる公共交通機関が増えた。 運転免許証の自主返納日の属する年度で申請が必要としたため、返納時期による申請期間の猶予に不公平感が生じた。
---

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 運転免許証を返納した日から1年間、マナカチャージ券(5,000円)を交付できるようにした。 また、高齢者外出促進事業のほか、あったかあど事業及び高齢者文化施設優待事業においても事業改善を行い、高齢者の外出の機会を増やしていく。
--

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**